

令和2年度第1回 新潟市子ども・子育て会議 会議概要

開催日時	令和2年9月4日（金）午後1時30分～3時20分
会 場	市役所本館 6階 講堂1-3
出席委員	阿部委員、市嶋委員、海津委員、川村委員、小池委員、小林委員、斎藤委員、佐藤委員、椎谷委員、志賀委員、関川委員、長谷川（雅）委員、長谷川（豊）委員、平沢委員、平田委員、三浦委員、山岸委員（出席17名、欠席2名）
事務局 関係課 出席者	こども未来部長、こども政策課長ほか同課より5名、こども家庭課長ほか同課より4名、保育課課長ほか同課より9名、児童相談所副所長、地域教育推進課課長、学校支援課長、教育総務課係長
傍聴者	3名
内 容	<p>【議事】</p> <p>（1）「新・すこやか未来アクションプラン（第1期計画）」の最終評価について</p> <p>○事務局より標記計画の最終評価について説明を行いました。</p> <p>○委員からは成果指標及び進捗管理調書について、主に次の意見・質問がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1-1「実際に持つつもりの子どもの人数が理想の人数よりも少ない理由として「子どもの医療費等の経済的負担が大きいから」と答えた割合について、割合が減少したのはなぜか。ほかの選択肢を選べる聞き方であれば、ほかの選択肢に分散したのではないか。 →昨年度から子ども医療費の助成制度において、通院の助成対象を小学6年生から中学3年生までに拡充している。そのことが割合減少の要因の1つになっていると考えられる。 →聞き方としては、ほかに20項目ほどの選択肢の中から選べるようにしている。選択された割合の高い項目は「大学教育に費用がかかる」「高等教育に費用がかかる」など経済的な負担に関する項目となっている。 ・働き方改革によって、以前よりも男性が育児休業を取得するケースや、子どもの体調不良の際に父親が休暇をとるケースが増えてきた。また、パートの方も働きやすくなってきている。そういったことを考えても、子育てしやすい環境になってきていると思う。

内 容

・「実際に持つつもりの子どもの人数が理想の人数よりも少ない理由として「子どもの医療費等の経済的負担が大きいから」と答えた割合について、割合が減少しているにも関わらず、少子化は改善されない。この他の要因についても考えていく必要があると感じる。

・少子化の問題は重要。これまで様々な策が講じられてきたが、少子化が改善されないことで、少子化は止まらないという見方が定着してきている。これまでとは違った見方で検討していくことが必要。

・資料1-2の総括表を眺めると、施策分野1「子どもが健やかに育つ環境づくり」の(3)「障がいのある子どもへの支援の充実」と施策分野2「安心して妊娠、出産、子育てができる環境づくり」の(1)「妊娠、出産、子育てのための切れ目ない母子保健の充実」のBの頻度が高い。医療関係の視点から見ても、もう少し頑張ってもらいたいと思っている。

→この項目については推進しなくてはいけない部分だと考えている。評価としては事業担当の自己評価であり、厳しくつけているところもあるが、今後も力を入れて取り組んでいく。

・資料1-2、基本施策5「精神的負担、不安を軽減する支援の充実」の(3)「保育園などにおける一時預かり事業」について、拠点園47施設でA評価になっている。保護者からの相談を聞くと一時預かりを利用しようとした際に、保育士の数の不足や子どもの定員、園の行事などにより預かりができず、困って相談してくる方が多い。この受け入れ状況については、各園に任せているのか、もしくは受け入れ状況の調査をしているものなのか。

→一時預かりについては、各園に任せている。全体的な利用者数について、年々減っている状況がある。理由について分析しきれていないが、預けたのに預けられないといった現状があるのは、保育士の不足等も影響していると考えられる。今後、要因を分析したうえで対応を検討していく。

・資料1-2、基本施策5「精神的負担、不安を軽減する支援の充実」の(2)「新潟市ファミリー・サポート・センター事業」の評価について、提供会員が依頼会員の2割程度となっており、提供会員の増加が課題となっているのに、なぜB評価なのか。

→ファミリー・サポート・センター事業については、提供会員の数が少ないという課題がある。目標人数としては達成しているが、活動を依頼したい

会員の希望をすべて叶えられるような体制づくりが必要と考え、評価をBとしている。提供会員の増加に向けた取り組みについては、今年度、各区の自治協議会を回って、提供会員の増加に向けてお願いに行くことを検討している。

- ・資料1-2、基本施策4「妊娠・出産・育児のための切れ目ない母子保健の充実」の2「安心して子育てができる環境の整備」の(1)「子育て環境の整備と孤立化しやすい保護者への援助」について、精神的なものや、物理的な援助などがあっても、ほとんどの保護者が何らかの形で孤立を感じている。自己肯定感の低い子どもが多いといった話もあったが、自己肯定感の高い大人も少なく、自己肯定感が低い大人が子育てをしていると思う。自分自身も子育てのやり方に自信がなく、PCITという子育てトレーニングを受けて、この成果を子育てに生かせるようになった。こうしたトレーニングのような子育ての方法を保護者に身に付けてもらえるような施策を行うと、保護者の負担が軽くなるのではないかと感じる。
また、夫婦間、家族間の不和によっても子どもの自己肯定感が低くなることもある。複雑化した家庭に対し、細分化された取り組みがあるとよい。

(2)「新潟市子どもの未来応援プラン」の進捗状況について

○事務局より標記計画の進捗状況について説明を行いました。

○委員からは進捗管理調書について、お主に次の意見・質問がありました。

- ・資料2-1「初めての子育て支援事業」について、第1子出生後の母子を対象とした子育て支援プログラムの具体的な内容は。

→子育てに特に不安を抱えやすい第1子出産後の母親を対象に支援することにより、その後の子育てへの不安感を軽減し、児童虐待や産後うつ病の発生予防につなげる。また、母親同士の仲間づくりを支援し、地域で互いに支え合い安心して子育てする環境づくりをすすめるプログラムとなっている。

- ・資料2-1「保育園等における各種健康診断・歯科検診」について、現状、眼科・耳鼻科健診は3年毎に実施となっているが、3年毎の実施で問題がないのか、医師である佐藤委員のご意見を伺いたい。

また、貧困によって医療サービスを受けられないことが実際に起きている。そういった現状も踏まえると、3年毎の実施に問題があれば改善すべきではないか。

→医師会側としても3年に1回では不十分だと感じており、協力したいと考えている。しかし、行政的に予算の問題があるという事と、法的に義務付けられたものではないことや医師側の実施体制などもあり、なかなか実施するのが難しいという話を聞いた。ただ、疾患が幼少化しているので、この問題は大事な問題だと考える。(佐藤委員)

→医学的な見地からの意見も踏まえ、実施体制等課題として承る。

- ・資料2-1、「学習支援派遣事業」について、教員を目指している学生が勉強を教えている事業だが、年度ごとに派遣数の増減があることに加え、評価がB評価になっている。いい事業だと思うので、A評価になるよう取り組んでいただきたい。

→本事業については、学生にとっても、大学にとっても、行政にとっても利益のある事業。回数の増減については、学校側からの要望に可能な限り答えられるよう対応したいと考えているが、教える側の学生は学業が優先のため、その合間を縫ってのボランティアとなっていることによるもの。また、今年度は新型コロナウイルスの影響により、前期は開催できていない状況だが、今後の状況を踏まえ開催できるようであれば、再開していきたい。

- ・資料2-1「児童相談所の相談対応件数」について、児童相談所の相談件数が増加する中、目標が4,234件、実績が3,769件という数を見ると、かなり多い数だと感じるが、今後、相談員が増える予定はあるのか。

→例年、虐待相談の件数も含め全体的に相談件数が伸びてきている。それに合わせ、国から児童福祉士、児童心理師を増やすよう通知もあり、実際に職員も増やせている。

また、相談に対し1件1件丁寧に対応し、虐待予防につなげなければならないため、所内でも相談支援の方に職員を増やしていくかたちで体制づくりを進めている。

(3) 新型コロナウイルスの影響及び対応について

○事務局より新型コロナウイルスの影響等について説明を行いました。

○委員からは新型コロナウイルスの影響等について、主に次の意見・質問がありました。

- ・資料4-2、「一時保護所内における感染拡大防止」について、遊戯室を一時的に仕切るための改修工事を実施とのことだが、この遊戯室は児童相談

所内にある遊戯室ということか。

→児童相談所に一時保護されるお子さんが使う遊戯室を指している。

(4) 幼保部会の開催報告について

○事務局より幼保部会の開催について報告を行いました。

○委員からは幼保部会の開催報告について、意見・質問はありませんでした。

(5) 第2期障がい児福祉計画の策定について

○事務局より第2期障がい児福祉計画の策定について報告を行いました。

○委員からは第2期障がい児福祉計画の策定について、意見・質問はありませんでした。